

純真学園大学

加藤 亮 二*

I. 大学の沿革と概要

純真学園大学は福岡市の中心地“天神地区”、JR 博多駅及び福岡空港からそれぞれ 15 分以内ときわめて好条件に恵まれた学園地区である筑紫丘



写真 1 福田昌子先生

に位置し、同じキャンパスに純真短期大学、純真高校、純真保育園が併設され、また埼玉県の羽生市に埼玉純真短期大学を持つ学校法人純真学園が運営する大学です(写真 1~3)。

本学は昭和 31 年の創設以来五十有余年の歴史を有し、創設者である福田昌子先生はヒスタミンの研究により女性として当時最年少で医学博士となり、戦後は衆議院議員として臨床検査技師の前身である“衛生検査技師法”及び優生保護法の立法化に功績を残してきました。また、教育の場に身をおいた後は私学として日本で最初の高等学校衛生看護科を設置するなど、これまでに予防医学や健康科学を中心とした教育を担って参りました。

このように本学のこれまでの歴史の中で臨床検査技師養成へのその意思は脈々と引き継がれ、現在の理事長であります福田庸之助先生は、新たに保健医療における高度な専門技能を有する人材育



写真 2 正門



写真 3 本館

*保健医療学部 katoh.r@junshin-u.ac.jp

成を目指し、平成 23 年度に九州地区で初めての保健医療系 4 学科「看護学」「放射線技術科学」「検査科学」「医療工学」を有する大学として発足させました。

保健医療学部における学科の定員はそれぞれ看護学科 80 名、放射線技術科学科 60 名、検査科学科 60 名、医療工学科 40 名で、全学生数は 960 名を有し、現在は 1~2 年生が元気に勉学に励んでいます。一方、教員数は 4 学科で 87 名、事務・図書館関係 27 名と合わせて 110 名を超える人材が担当しています。

II. 本学の教育目標及び特徴

本学は地域医療を含めた社会的ニーズに寄与すべく、教育方針である「気品」「知性」「奉仕」の精神を重視し、医療における専門職としての謙虚な品性を保ち、礼節を重んじた人材育成を目指しています。また、本学の教育目標の一つとして社会人基礎力の養成を基盤としたインタープロフェッショナル(多職種連携)教育を行います。変革が著しい保健医療分野において、それぞれの資格の専門性を越えた横断型カリキュラムを導入し、1 年次から 4 年次まで段階的に学び習得することにより、お互いの職種を理解し、チーム医療に必要な連携能力と患者さんの立場に立った総合医療の実践が可能な人材育成を行うため、1 年次では共通基盤の構築と他職種への理解、2 年次では職種の関係から連携へ、そして協同理解と進み、3 年次では医療職としての共通認識や更なる他職種の専門性の理解を学び、4 年次でコミュニケーション能力や問題解決能力を養うための他職種連携の最終構築を目指します。

また、学生へのサポート体制を強化するために通常の担任とは別にスモールグループ(SG)制度を設け、履修方法や様々な相談等について 1 年から卒業時まで一貫して取り組んでいます。さらに、国家資格への合格はもちろんのこと、日々の学生生活をはじめとするきめ細かいサービスに加えて、進路対策委員会によるキャリア教育体制が完備され、社会人としての接遇マナーを初め人材育成プログラムを準備し、九州地区を主とする地域医療

への貢献ができる人材の輩出へ取り組んでいます。

III. 検査科学科における教育内容

臨床検査技師を養成する検査科学科では、1 年次の教育で人間形成に必要な教養科目を中心とした体制になっていますが、臨床検査技師を目指すための動機付け教育(例えば臨床検査早期体験実習など)についても習得し、更には看護学科をはじめ他の 3 学科と協同したチーム医療、教養ゼミナール、1 泊研修旅行などを行っています。

2 年次から 3 年次では本格的な専門基礎科目・専門科目が開始され、3 年次後期で学内授業が終了し、4 年次前期に臨地実習(福岡県を中心とした病院)を体験します。その後、卒業研究を開始し、後期には臨床検査学におけるスペシャリストを育成するための統合科目系や総合科目系が準備され、臨床検査特論、医療情報学、看護学概論、医療統計学、医療英語、ジャーナル購読をはじめ法医学関係の業務にも進めるよう法医学、DNA 鑑定学に加えて、臨床検査技師に職業能力の幅を広めることが可能な食品関係分野の科目も選択履修ができる体制を整えています。

検査科学科におけるこれらの科目を担当する専任教員は 16 名(教授 5 名、准教授 4 名、講師 3 名、助教 4 名)で、その内訳は臨床検査技師教員(14 名)、その他理学部出身者が 2 名であり、ほぼ全員が博士の学位を有した教育研究者です。このことは教員自身が後輩を育成するという使命感につながり、また、学生との距離が近い臨床検査学の構築を目指すものです。さらに、臨床実習関連では、臨地教授制度を創設し現場で活躍される臨床検査技師及び医師に対して臨地教授等の発令を行い、学外での臨地実習が円滑に進むよう配慮しております。

IV. 今後の計画

現在、開学して 2 年目を迎えているために、学内組織としては未完成ではありますが、今後の教育・研究体制をさらに充実させるために完成年度を迎える平成 27 年には大学院修士課程を設置する計画で準備しています。そのために教育研究備



写真 4 春海大学(韓国)との交流

品の充実や図書館及び学生が使用するゼミ室、国家試験対策室など教育環境施設の整備が必要ですのでそれも併せて行う計画にしています。

一方で、学生の国際的視野を広げる意味でも近隣のアジア諸国と国際交流を積極的に行う必要があります。韓国、中国、タイ国との交流を開始するための準備をしているところですが、本年の1月には釜山市内の保健医療大学の大学生9名と学科長1名が来学し、本学学生との交流・懇親を図りました(写真4)。年内にも本学から韓国へ行く計画です。続いてこの2月にはタイ国の2つの大学との交流を開始するために訪問する計画です。

他には、看護学科や他の学科の学生との懇親を

深めるための学友会の活性化に加えて、本学の学園訓である気品、知性、奉仕を実現するための“純真学”をカリキュラムに設け、医療人に必要な幅広い教養と見識が得られるための工夫を取り入れていくよう考えています。

最近是不況のせいか医療に関係する資格者教育が人気となっていますが、九州などにあります地方大学にとっては、これから到来します少子高齢化社会では大変な時代となることが予想されています。大学はすべて同じではなく入学する学生にとって『この大学で学べば何が有益であるか』を見え(分かり)易くすることが重要で、社会に役立つ“ヒト造りの大学”を目指すつもりです。